

都道府県番号	25
都道府県名	滋賀県

【 】

### 学校名及び規模

学校名	安曇川町立安曇小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	25
児童数	73	55	66	61	80	60	3	398	

### 研究の概要

#### (1) 研究主題

評価規準を授業改善、個に応じた指導に生かしていくための、わかりやすい評価の工夫

#### (2) 研究主題設定の趣旨

評価を実際に機能させるために、単元指導計画の中に評価の観点を計画的に配置するとともに、簡潔かつ有効な評価の方法を工夫すれば、個々の子どもの学習状況や目標達成状況が把握でき、適切な支援が可能となるであろう。また、評価を累積することによって、子どもの変容や成長を明らかにしていくことができるであろう。

### 研究の概要

#### (1) 研究推進体制の工夫

評価研究部のメンバーは、低・中・高学年部会のいずれかに属して、両部会が連携して進めるようにした。評価規準の設定および見直しを行った昨年度よりも、学年部研究を中心にした実践的な研究を推進した。各学年部会には「授業改善部」「教材開発部」のメンバーも所属するので、横の連携もとりやすくなっている。学力診断テストの作成などは、各学年部に所属しているメンバーで分担したので、日々の指導を振り返りながら問題作りが出来るといったメリットもあった。

#### (2) 研究の実際

本年度は、昨年度から取り入れている「スモールステップカード」「関門テスト」「一冊ファイル」などを活用しつつ、子ども一人ひとりをより簡便に評価し、指導に生かすことのできる方法についてさらに工夫・実践するとともに、一昨年度作成した評価規準をどのように授業に生かしていくかについても検討した。

また、学力調査を実施し、基礎・基本の定着状況を把握するとともに、事後の指導に役立てる取組みも始めた。

「評価規準」を学習展開に生かす

#### 評価計画

単元毎に示した評価規準を単元指導計画の中に配置し、「いつ、どの観点を評価するのか」が明確になるようにした。

#### 一単位時間における評価

一単位時間の目標を吟味することにより、評価の観点を1つ(多くても2つ)に絞り込んだ。1時間にいくつもの観点について評価しようとしても無理なことが多く、適切な評価活動ができないと考えたからである。

## 評価方法の工夫

### 「座席表」を用いた評価活動

指導と評価の一体化を図るために、学習過程における評価（形成的評価）を大切にしている。評価計画に沿って評価を行い、学習内容の習得状況、授業中に気づいたこと、顕著であった点などを「座席表」に記録し、次時の展開や個別指導に生かしている。「座席表」には、各時間の評価の観点を記入しておき、授業中も目につくようにした。なお、座席は、一定期間固定している。

### ・事例【4年算数「2けたでわる計算」あゆコース・7時間目】

(4)年(あゆ)コース 10月20日 第7時

単元 (2けたでわる計算)

評価 3位数÷2位数の計算がわかる。

		A 見 計算がわかる	B 見 〇		
C 見 〇	D 見 商の見当が わかる	E 見 〇 商の他に たし算や掛け算 に説明した	F 見 〇 「商がわかる 数」をた は、商の 大きい小さいを わかってる	G 見 △ 商のたし算 がわかる	H 見 〇
I 見 △ かけ算(商×被 除数)が わかる	J 見 △ 商のたし算が わかる たし算の たし算が わかる	K 見 〇	L 見 △ 商のたし算 がわかる	M 見 〇	N 見 〇 計算がわかる

評価の結果見えてきた誤りやつまずき（特に 印のついた5人の子どもの習熟度が低かった）

- ・商の見当がつけられない
- ・商を立てる位置を間違えている
- ・商とわる数のかけ算が正確にできていない

### 対策

全体指導での復習  
 気になる5名への意図的な問いかけ  
 " 机間巡視時の適切な支援  
 休み時間や安曇っ子タイムを使つての個別指導

### 成果

「そういうことやったんか!」「できた!!」・・・  
 (自分で解けるようになってきた時の納得の声、喜びの声など)  
 商を何度も立て直しながら、自分の力で解いてみようとする姿  
 (補充指導を)もっとやりたいという声

評価を効率的に行うための工夫

授業中一人ひとりの子どもの学習の様子を素早く簡単にチェックし、直ちに個に応じた指導に生かすことができるようになった。

・事例【用紙の色を変える】

いくつかの練習問題に次々に取りませる時、最初の問題だけピンク色カードに、2問目からは白いカードに印刷し、つまずいている子どもを見落とさないようにした。

単純な工夫ではあるが、多くの子どもを素早くチェックするのに適した方法であった。

本時の定着度を見取る工夫

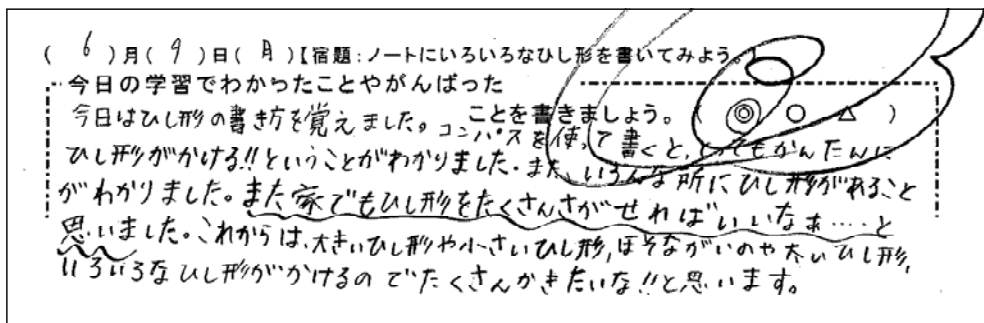
各時間の目標の達成度の見取りは、ノートのほか自作・市販のドリルやプリントなどを使って行っている。達成度や習熟度を記録、整理するのに座席表を利用することもある。

自己評価

自己評価は、一人ひとりの習得状況や学習に対する興味・関心を把握する上で有効な手段であるだけでなく、子ども自身が自己の姿を振り返り、新しい課題の解決に向けた主体的な学習を盛んにするものである。

3, 4年は単元の終末で、5, 6年は毎時間の終わりに実施している。記述式であり、3, 4年生には取り組みにくい面もあるが、少しずつ定着してきている。自己評価により子どもの「自ら考え、解決していく力」がどのように育っているかを検証していくことが、これからの課題である。

・事例【5年生の自己評価】



基礎学力達成目標の設定

各学年の指導内容の中で、特に重要と考えられる事項を抽出し、それらを「基礎学力達成目標」として設定し、確実な定着を目指している。

「基礎学力達成目標」と達成状況(抜粋)

特に計算力については、本資料「基礎学力テスト問題」の集計・分析結果を参考に、確実な定着を目指している。

「弱いところ問題集」を作成し、基礎学力の向上に生かしている。

・「弱いところ問題集」は朝学習で活用する。

・特に正答数の少なかった子どもには、「ふれあいタイム」利用して補充している。

学力定着度テスト

昨年度より学力調査を実施している。昨年は、県小教研算数部会作成の算数科学力診断テストを4年生以上で実施したが、今年度から本校自作テストも加えて全学年で年間2回(10月・3月)実施することとした。

平成15年度(前期)算数科学力定着度テストと結果(抜粋)

(3)研究の成果と課題

成果  
毎時間、「座席表」に評価したことがらを簡潔に記録し、次時の展開や個別指導に役立てて、評価と指導の一体化を図るなど評価規準を日々の授業に生かしている。

評価の工夫と指導の工夫が一体となって、子どもの学習意欲を高めることができた。学年ごとの「学力定着テスト」の結果と「基礎学力達成目標」の達成状況から補充指導や個別指導を行うことができた。また、そのための問題集も作成した。担当者によって評価にばらつきが出ないように、評価の基準について共通理解を図っておく必要がある。特に、「関心・意欲・態度」や「思考・判断」については十分に話し合いの時間をとった。

授業中に評価について記入することが無理な場合でも、「座席表」があると事後の処理がしやすかった。

**課題**

評価に関して情報交換を行い、共通理解を図ることは重要であるが、そのための時間確保が困難なことがある。

**(4) 研究成果の普及の方策**

**研究協議会の開催**

- 1.日 時 平成15年11月21日(金) 13:30~16:40
- 2.会 場 安曇川町立安曇小学校
- 3.日 程

授業公開 13:30~14:15 (2・5年生)  
 授業研究会 14:30~15:40  
 講演 15:40~16:40

『地域ぐるみの学力向上』

福井県大野市教育委員会学校教育課係長 山川龍一 氏

**ホームページによる研究実践の公開**

本校のフロンティア事業の取り組みは、本校のHPにおいて授業研究の取り組みの様子を中心に、基礎学力向上に関する学校の取り組みをきめ細かに紹介し、公開している。 <http://www.ex.biwa.ne.jp/~adosyou/>

**保護者向け学校説明会や学校便りによる研究実践の公開**

具体的な取り組みの様子や数値をあげた取り組みの成果を毎月発行している学校便り「あど」において公表するとともに、授業参観を通して、取り組みに対する保護者の理解と協力を求めている。また、保護者に依頼した「学校評価」の項目に取り組みの評価を入れて評価してもらっている。

学力向上フロンティア事業」の取り組みの一環として、新聞社(4回)、TV局(2回)等の取材にできるだけ応じ、広く実践を紹介している。

講師として実践発表を年数回行っている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13~18学級 25学級以上	7~12学級 19~24学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	TTによる指導 その他		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	

**【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】**  
 ・「座席表」を用いて授業時間における形成的評価を大切にし、指導改善に生かしている。

【観点3 資料】

学年毎基礎学力達成目標と設定理由

	身につけさせたい基礎学力	設定理由
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5, 10の構成(合成分解)が分かる。</li> <li>・1位数のたしざん、ひきざんがスムーズに言える。</li> <li>・2位数の構成が分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加法、減法の基礎</li> <li>・2位数、3位数の加法減法の基礎、筆算の中で使う。</li> <li>・十進位取り、大きな数の基礎</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九九が確実に言える。</li> <li>・筆算が正しくできる。</li> <li>・ものさしを使って正しい長さの直線が引ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算、わり算の基礎</li> <li>・加法減法の筆算の基礎。3位数大きな数の筆算へつながる。</li> <li>・3年以降の図形の書き方へ繋がる。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九九をつかった余りのあるわり算ができる。</li> <li>・かけ算の筆算ができる。</li> <li>・三角形(直角三角形)、四角形(長方形、正方形)が正確に書ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算の筆算の基礎。小数のかけ算に繋がる。生活場面でよく使う。</li> <li>・4年以降の三角形、四角形、直方体と立方体へ繋がる。</li> </ul>
4年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わり算の筆算ができる。</li> <li>・四捨五入の方法がわかり、確実にできる。</li> <li>・分度器、コンパスが正しく使える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わり算の筆算の基礎。小数のわり算に繋がる。生活場面でよく使う。</li> <li>・日常生活でよく使う。5, 6年の概数の計算で使う。</li> <li>・角の大きさの測定や作図に必要な基礎的技能。</li> </ul>
5年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小数の計算ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面積を求める計算などに関係する</li> </ul>
6年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分数の計算ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通分、約分など重要な内容が含まれる</li> </ul>

基礎学力達成目標の達成度

1年

目 標 : 1位数のたしざん・ひきざんがスムーズに言える			
	十分満足	おおむね満足	努力を要する
規 準	自作テスト 90点以上	70～89点	70点未満
人 数	69	2	2
割合%	94%	3%	3%

3年

目 標 : 九九をつかった余りのあるわり算ができる			
	十分満足	おおむね満足	努力を要する
規 準	指導書巻末テスト利用 正答率90%以上	70%～89%	70%未満
人 数	54	6	5
割合%	83%	9%	8%



## 5年 算数科学力定着度テスト結果（前期）

		正答数	率%	誤答数	率%	主 な 誤 答
1		67	84	13	16	10(6)0.01(5)
		79	99	1	1	
2		72	90	8	10	$4/7 \cdot 6/7 \cdot 9/7$ (5)
3	ア	73	91	7	9	長方形、台形、二等辺四角形など
	イ	80	100	0	0	
	ウ	77	96	3	4	
4		77	96	3	4	不正確(3)
		71	89	9	11	垂直(4)不正確(4)
5		75	94	5	6	
		67	84	13	16	
6		79	99	1	1	
		77	96	3	4	
		76	95	4	5	$1\frac{3}{9}$ (4)
		76	95	4	5	
		79	99	1	1	
		71	89	9	11	問題写し間違い(3)
		76	95	4	5	足し算ミス(2)
		74	93	6	7	足し算ミス(3)
		75	94	5	6	かけ算(2)小数点打ち忘れ(2)
		63	79	17	21	計算方法の間違い(10)片方だけ10倍など
			92.9			

### 考 察

・かけ算やわり算を筆算でするとき、たし算の繰り上がりを忘れたり、式を筆算に書き写す時に問題をしっかり見ていなかったりという不注意による間違いが多い。

・わり算の筆算のやり方が十分定着していない児童も見られるので、確実に処理できるように、個別指導を取り入れるほか、繰り返し練習するなどの対策が必要である。

・図形に関する知識・理解（四角形の内角の和、平行・垂直）や表現・技能の面でもや心配なところがある。